

日本語を母語とする韓国語学習者のための 韓国語の発音教育

——入門期学習者のための母音・子音の発音教育に関して——

梁 炫 玉

要旨

文法の構造面ではよく似ている韓国語と日本語であるが、両国語の発音では大きな相違点もあり、その独自性は強い。本稿では、日本人の学習者が少しでも効率的に韓国語の発音が学習できるように、韓国語母音の音素とその発音に近い日本語の母音とを比較する一方、子音の発音では子音を発音方法や発音位置などによって分類しそれを表にまとめた。

本稿の構成は、1. はじめに、2. 既存テキストの構成と問題提起、3. 発音学習上の問題点と学習方法、4. おわりにとなっている。主要内容は、発音学習上の問題点と学習方法であり、発音の重要性、発音学習時の問題点、単母音の発音、重母音の発音、破裂音、摩擦音、鼻子音、側音などについて述べている。

おわりでは韓国語を教育する教育者が発音教育のために努力すべき点について述べている。①音韻論や音声学的な説明が中心となっていない、②韓国人も明確に区別していない発音は学習者に強調しない、③正確な発音の学習のために標準となる発音が収録されたビデオテープやCDなどの活用と工夫、④学習への意欲を鼓舞するための教育者の学習者への気配り、⑤学習順序の工夫などである。

キーワード：韓国語、発音、子音、母音

1. はじめに
2. 既存テキストの構成と問題提起
3. 発音学習上の問題点と学習方法
 - 3.1 発音の問題点
 - 3.1.1 発音の重要性
 - 3.1.2 発音の学習時の問題点
 - 3.2 母音発音の学習方法
 - 3.2.1 単母音の発音
 - 3.2.2 重母音の発音
 - 3.3 子音発音の学習方法
 - 3.3.1 破裂音
 - 3.3.2 摩擦音
 - 3.3.3 鼻子音
 - 3.3.4 側音
4. おわりに

1. はじめに

韓国語と日本語は類似した言語である反面、その独自性も強い。文法の構造面ではよく似ている側面があるが、発音では大きな相違点がある。

初めて韓国語を学習する日本語を母語とする学習者（以下日本人とする）にとって、韓国語発音の学習は思った以上に高いハードルであることを私は経験から学んでいる。岡崎にあるO女子短期大学生涯学習センターで一般人¹⁾を対象に韓国語を教えたことがあるが、多くの学習者が発音で苦勞していたのをみてきた。大多数の受講者が初めて韓国語に接していたためではあるものの、もう一つは韓国語の発音の特異性もその一因であろう。日本人にとって日本語とはかなり異なる構造の韓国語の発音は簡単ではなく、初期段階では発音練習に多くの時間が必要であった。したがって、韓国語の初級レベル学習者のための発音に関する教育方法の必要性を強く感じ、今まで個別に説明されていた母音・子音の発音を類型別にまとめると同時に終わりでは母音と子音に関する発音の教育方法をいくつか提案したい。

韓国語を勉強している人々の韓国語学習の目的はそれぞれ違いがあるとはいえ、発音練習は必要不可欠である。多くの学習者にとって予習・復習の時間が不十分であったり、授業以外は韓国語による会話の機会がほとんどなかったりするのが現状であろう。従って、本稿は発音のことが理解しやすいうえ、一人でも発音の練習ができるように母音と子音をそれぞれ類型別にまとめたい。また発音の説明においては日本語の発音と比較し、より効率的な学習になるように努めたい。

2. 既存テキストの構成と問題提起

本稿では、既存のテキストを検討したうえで、発音学習においての音韻論と音声学理論を取り入れながら発音の方法を探りたい。現在出版されている多くのテキストは、画一的とっていいほど、ハングルの字母、書き方、文字の組み合わせ、バッチムといった順番に提示し、練習しているように思われる。そこで問題として指摘したいのは、母音表や子音表などをせっかく提示していながらそれについての説明が十分でないために、学習者は満足に理解できないまま次の段階へと進んでしまうという点である。特に一人で学習しようとしている学習者には切実な問題である。日本人に日本語にはない韓国語特有の発音についてもう少し音声学的に説明を付け加えてもらいたい。私が授業で使用していたテキスト²⁾の発音と文字の部分の構成を例に挙げてみると以下の通りである。

第1課 ハングル(1)

1. ハングルの字母

1) 全体50人のうち、女性が47人。年齢層は20代から70代まで広いが、20代と70代が2人ずつで、多くは30代後半から50代前半の主婦であった。これは『冬のソナタ』に代表される韓国のドラマによる影響が韓国語学習の動機となっていた。

2) 李相億外(2003)『韓国語Ⅰ』、ハンリム出版社。

2. ハングルの書き方

3. 書きとりの練習

第2課 ハングル (2)

1. 聞き取りと書きとり

2. 読みの練習

3. 書きとりと読みの練習

4. 書きとりの練習

5. 重母音⁵⁾

ㅞ = ㅏ + ㅣ [ε エ]

ㅟ = ㅓ + ㅣ [yε イエ]

ㅠ = ㅓ + ㅓ [e エ]

ㅡ = ㅓ + ㅣ [ye イエ]

ㅢ = ㅡ + ㅣ [üi ウィ]

ㅣ = ㅓ + ㅣ [wi ウィ] [üi ウィ]

ㅤ = ㅓ + ㅣ [we ウェ] [ö ウェ]

ㅥ = ㅓ + ㅓ [wa ワ]

ㅦ = ㅓ + ㅞ [wε ウェ]

ㅧ = ㅓ + ㅠ [wō ウォ]

ㅨ = ㅓ + ㅡ [we ウェ]

第3課 ハングル (3)

1. 読みと聞き取り

2. 読みの練習

3. 読みと書きとり

第4課 ハングル (4)

1. 読みと聞き取り

2. 読みの練習

3. 読みと書きとり

4. 書きとりの練習

第5課 ハングル (5)

1. 文字の組み合わせ

2. 読みと聞き取り

3. 書きとり

このテキストは入門期の学習者を対象にしており、全25課のうち第5課までが文字と発音の練習に割り当てられているが、入門期の学習者が一人で学習するには説明が不十分であると言えよう。上では本の構成のうち、発音と文字について説明している最初の部分を概略的に紹介したが、発音に関しては図1の母音と表1の子音のみである。ところが、日本人にとってこれだけでは理解するのは難しく、学習者の韓国語習得は教育者の個人的な力量に大きく左右されがちである。

その他に大阪経済大学の図書館所蔵の韓国語関連の書籍を調べてみると、調べた全29

4) 前掲書, p 4.

5) 前掲書, p 14.

冊⁶⁾のうち発音に関して説明が十分にできていたのは1冊, ある程度説明されていたのは6冊, ごく簡単な説明がなされていたのは11冊, 発音のことをまったく述べていないのは11冊であった。日本語の発音と比較して説明されていたのは数冊にとどまっており, 発音に関する説明が不十分であることを実感した。

日本語の発音に比して韓国語の発音の方がより複雑で難しいことを考慮にいと、日本人にとってより分かりやすい韓国語の母音及び子音の発音に関する教育方法はもっと研究する必要がある。

3. 発音学習上の問題点と学習方法

3.1 発音の問題点

3.1.1 発音の重要性

日本人に韓国語を指導しながら幾度となく, 発音教育のことで悩んだことがある。これは私だけではなく, 韓国語を教えたことのある人や韓国語を勉強したことのある日本人なら例外なく経験したことであろう。この発音のことは外国語を学習する日本人だけの問題ではなく, 外国語を学習する全ての人々の課題であると言えよう。即ち, 学習者の母語が何かによって発音学習時に表れる問題点はそれぞれ異なっている。この現象は外国語の学習, 特に発音の学習時に顕著なもので, 発音には母語の影響が強く働くものであると再三認識させられるものである。

ここで私が経験した例を一つ挙げてみる。初級レベルといっても自己紹介程度は出来るグループを指導していた時のことである。家族関係を説明した後, 一人ずつ家族関係を紹介してもらった際, 学習者の全員が発音のことで苦戦したのが“딸 (娘)”という言葉であった。“저는 아들이 한 명, 딸이 한 명 있어요 (私には息子一人, 娘一人がいます)”といった文章の中で, “딸 (娘)”という発音がどうしてもうまく出来なかった。そこで, “달 ([tal]⁷⁾, 月, 平音)” “탈 ([tʰa:l], 面, 激音)” “탈 ([t'al], 娘, 濃音)”という発音の異なる語彙を提示して, 何度も繰り返して聴かせてもすぐには上達できなかったことを今でも覚えている。もう一つは, “김치 (キムチ)”の発音である。日本語にはない“バッチム (終声)”を発音する際, そのバッチムに母音を付け加えて発音するという問題である。[kimtʃi] という発音であるが, 学習者達は [kimutʃi] と発音していたのである。この問題に関しては数回の練習によって解決することが出来た。

上述した例の問題点は, 韓国語と日本語との個別音素の発音の違いや音節構造の違いからくるものであろう。これは韓国人が英語を学習する際にも表れる問題でもあり, 英語を母語とする人が韓国語を学習する際に表れる問題でもあろう。即ち, 母語の発音や音節構造や音韻現象がそれとは異なる外国語の発音に強く影響を及ぼしているからである。

そして, 発音というのは外国語を学習するとき, 初期段階で体得するものであるもので最

6) 本稿の参考文献の韓国語教材を参照されたい。

7) 本稿の文中に用いている発音記号は, 韓国放送公社 (1999)『標準韓国語発音大辞典』, (株)語文閣を参考にしている。

初から体系的に教育を行う必要がある。子どもが最初に親から簡単な言葉を何度も繰り返して聴かされるうちにその発音を覚え、それからその意味を覚え、それを文章の中で使いこなせるといったプロセスを考えると、韓国語を学習しようとする学習者にとって正確な発音の初期段階での習得は重要なことと言えよう。

発音が重要な理由のもう一つは、正確な外国語の発音は相手にも良い印象を与えるという点である。外国人が正確な発音で日本語を話しているのを見かけると、その人に好印象を持つと同時に“日本語うまいな”と思うに違いない。

以上で述べたように、日本人が韓国語を学習する際、韓国語の発音には日本語の発音の影響が強く働くということ、発音は初期段階で正確に覚えなないといけないということに指導者も学習者も留意してほしい。

3.1.2 発音の学習時の問題点

上述したように、日本人が韓国語を学習する際に最初の壁として感じるのは韓国語の発音である。これは韓国語と日本語との基本的な相違点を考えると無理もない。母音と子音の数だけを比較してみても、日本語の母音は5個⁸⁾であるのに対して韓国語は基本母音だけで10個⁹⁾である。また、子音音素をみても、日本語は16個¹⁰⁾であるのに対して韓国語は19個¹¹⁾である。即ち、日本語より韓国語の音素が多いので、日本人が韓国語を発音するのに苦労するのは仕方ないことかもしれない。

このような基本的な相違点を踏まえて母音と子音のそれぞれの発音及び発音教育に関して述べていきたい。

3.2 母音発音の学習方法

母音とは、はっきりとした口腔の収縮なしに口腔の形を変えることによってつくられる音である¹²⁾。韓国語の基本母音は10個であるが、母音全体の数は21個である。21個の母音は、一つの母音だけの単母音と、二つ以上の単母音で出来た重母音とでなっている。単母音と重母音を整理したのが表2であるが、この二つの相違点というのは発音を始める時と発音を終える時に唇の形や舌の位置が変化するか否かである。即ち、単母音の場合は発音を始める時と発音を終える時に唇の形や舌の位置が変化しないで一定しているのに対して、

8) 服部四郎 (1960)『言語学の方法』, 岩波書店, p 360によると, 母音音素は /i, e, a, o, u/。

9) 基本母音には, /a, ja, ʌ, ja, o, jo, u, ju, ɯ, i/ 等の10個, その他の母音音素には /ɛ, je, e, je, we, ui, wa, wʌ, wi, w, ɐ, we/ がある。

10) 日本語の場合は学者により意見が異なるが, 服部四郎, 前掲書, p 9 では, 子音音素を /p, t, k, b, d, g, m, n, ŋ, s, c, z, r, h, w, j/ の16と外に N (撥音), Q (促音) があるとしている。

11) 李喆洙 (1993)『韓国語音韻学』, 仁荷大学校出版部, p 51によると, ㄱ [k, g], ㄴ [n], ㄷ [t, d], ㄹ [l, r, ʌ], ㄴ [m], ㅂ [p, b], ㅅ [s, ʃ], ㅇ [ŋ, ʔ], ㅇ [č, ʃ], ㅇ [čʰ], ㅇ [kʰ], ㅇ [tʰ], ㅇ [pʰ], ㅇ [h], ㅇ [kʰ], ㅇ [tʰ], ㅇ [pʰ], ㅇ [sʰ, ʃʰ], ㅇ [čʰ] があるが, 同じ子音でも調音位置や調音作用によって複数の発音がある。

12) 李喆洙, 前掲書, p 58.

表2 母音の種類

単母音	ㅏ [a], ㅣ [i], ㅓ [u], ㅜ [ɯ], ㅑ [e], ㅕ [ɛ], ㅗ [o], ㅛ [ʌ, ə], (ㅟ [y, wi], ㅠ [ø])
重母音	ㅘ [ja], ㅙ [jʌ], ㅚ [jo], ㅜㅝ [ju], ㅞ [je], ㅟㅝ [jɛ], ㅠ [wa], ㅡㅝ [wʌ], ㅢㅝ [we], ㅣㅝ [wɛ], ㅤ [wi], (ㅥ [y, wi], ㅦ [ø])

重母音の場合は発音する際に自然と唇の形や舌の位置が変化するのである。

標準発音法によると、“ㅟ [y, wi], ㅠ [ø]”は単母音として発音するのを原則にするが、重母音として発音するのも良いとしている。この二つの発音には個人差がある。60代以上では単母音として発音する傾向が多く、50代以下では重母音として発音している¹³⁾。実際若い世代では二つの母音を重母音として発音しているので、筆者もこれは重母音として扱うことにする。

3.2.1 単母音の発音

韓国語の単母音は、学者によって見解が異なるが、上で述べたように“ㅟ, ㅠ”の二つの母音は重母音としてみなし、重母音と一緒に説明することにする。ただし、“ㅟ”の場合、“ㅏ [s]・[ʃ], ㅓ [d]・[t]”¹⁴⁾と一緒に発音する際は単母音となるので、これは学習者が混乱しないように教育者がしっかり説明しないといけない。

ここでは実際日本人に韓国語の発音を指導するという場面を想定したうえで、より効率的な方法を提示したい。

単母音の発音を指導する際は、まず日本語の5個の母音を国際音声記号で提示したうえで、8個の韓国語の単母音と発音比較しながら、同じ発音と区別すべき発音とを区分して説明する必要がある。

ㅏ [a], ㅣ [i], ㅓ [u], ㅜ [ɯ], ㅑ [e], ㅕ [o]

ㅏ [a], ㅣ [i], ㅓ [u], ㅜ [ɯ], ㅑ [e], ㅕ [ɛ], ㅗ [o], ㅛ [ʌ]・[ə]¹⁵⁾

日本語の“ㅏ [i]”と韓国語の“ㅏ [i]”の発音は同じであるが、日本語の“ㅏ [a]”と韓国語の“ㅏ [a]”とはほぼ同じ発音でも口の開く程度（顎の動き）には差があることを説明し、発音と同時に文字¹⁶⁾も書いて提示する。それから日本人には同じ発音として聞こえてなかなか区別しにくいのが“ㅑ [e]”と“ㅕ [ɛ]”, “ㅓ [u]”と“ㅜ [ɯ]”, “ㅗ [o]”と“ㅛ [ʌ]・[ə]”である。これらの母音の発音が実際は違うということをしかり理解させなければならない。一つ目は、日本人にとっては両方とも“ㅑ [e]”に聞こえる“ㅑ [e]”と“ㅕ [ɛ]”, 二つ目は、両方とも“ㅓ [u]”に聞こえて区別が難しい“ㅓ [u]”と

13) 허용외 6 人 (2005) 『外国語로서의 韓国語教育概論』, 図書出版박이정, p 106.

14) “ㅏ, ㅓ”の発音が複数あるのは、本稿表8を参照されたい。

15) “ㅟ”の発音が複数あるのは、本稿図5を参照されたい。

16) 子音はもちろん母音も単独では表記できないので、発音のない子音“ㅇ”と一緒に表記することを説明する。この際、ハングルの音節構造、即ち子音(C)+母音(V)+子音(C)についても説明をするが、学習者のレベルに合わせて紹介する程度で済まして良い。

“一 [w]”, 三つ目は, 両方とも“オ [o]”に聞こえる“ㅜ [o]”と“ㅛ [ʌ]・[ə]”である。それぞれの文字を提示しながら, 実際発音を聞かせてその違いを理解させる必要がある。ただし, “ㅓ [e]”と“ㅕ [ɛ]”の発音に関しては韓国語を母語とする韓国人でも現在は明確に区別していないことを説明したうえで, 両者の発音の区別をあまり意識しなくても良いと言ってよからう。これらの説明は後述することにした。

このようにして文字と発音を区別させた後, これらの発音を練習する際には音声学的な知識を利用すればより効果的に説明が出来よう。音声器官図¹⁷⁾や母音三角図¹⁸⁾, 母音四角図¹⁹⁾などを利用するのである。母音三角・母音四角図のことを十分理解させたうえで, 唇, 口の中の動きや舌の動きなどについて分かりやすく音声器官図を利用しながら説明する。

母音三角・母音四角図というのは, 母音を発音する際の調音の位置や開口の状態によって分類し描いた図である。国際音声記号を基に描いた母音三角図は, 韓国語の母音体系とは少し異なっているので, 韓国語の母音三角図²⁰⁾と比較のためにここに紹介してみた。

この三角図や四角図をもとに, 口の開く程度, 舌の位置, 唇の形などを基準に分類し, 表にまとめた後, 提示した母音の発音について日本語の母音と比較しながら具体的に説明してみたい。

表3 口の開く程度による単母音の分類

高母音	口をほとんど開かないで発音する母音	ㅣ	一	ㅓ
中母音	口を少し開いて発音する母音	ㅓ	ㅕ	ㅜ
低母音	口を大きく開いて発音する母音	ㅕ	ㅗ	

表3を見ると, 韓国語の母音は高母音, 中母音, 低母音で区分できるが, この区分は口の開く程度を基準にした分類である。即ち, 高母音の“ㅣ [i], 一 [w], ㅓ [u]”は口を開ける程度が最も小さく, 唇を横に引っ張るようにして発音するものである。中母音は, 高母音を発音したときより下の顎を少し動かして口を高母音よりは少し大きく開けて発音する。そして中母音よりさらに口を開けて発音するのが低母音の“ㅕ [ɛ], ㅗ [a]”であるが, “ㅕ”よりは“ㅗ”の方を大きく開けて発音するので注意が必要である。ただし, この区分はあくまで口の開く程度での分類なので, それぞれの舌の位置や唇の形は異なる。

17) 平山亮の「ニューラルネットで探る発話のメカニズム」からコピー。http://results.atr.jp/atrl/ATR12/24/fig_01.html

18) 「공명철의 열린 국어 강의노트 (孔明哲の開かれた講義ノート)」からコピー。http://ipcp.edunet4u.net/~koreannote/img/모음삼각도.jpg

19) 「공명철의 열린 국어 강의노트 (孔明哲の開かれた講義ノート)」からコピー。http://ipcp.edunet4u.net/~koreannote/img/모음사각국어.jpg

20) 吳大煥 (2003) 「일본 대학에서의 한국어 발음 교육—나고야 상과대학의 예를 중심으로— (日本の大学における韓国語の発音教育——名古屋商科大学の例を中心に——)」『外国語로서의韓国語教育 (外国語としての韓国語教育)』第28集, 延世大學校言語研究教育院韓国語語学堂, p 122。これをもとに若干説明を加えた。

図2 「音声器官図」

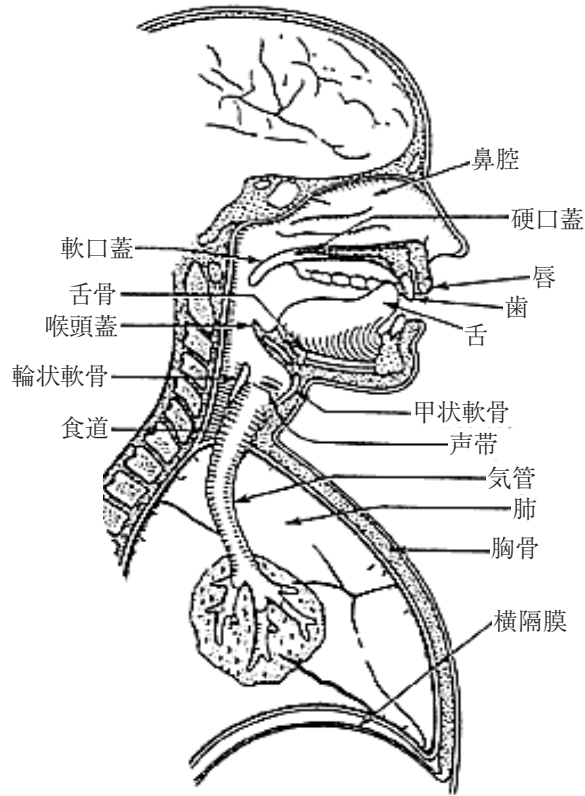
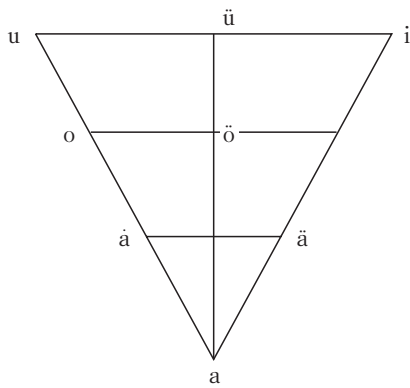


図3 「母音三角図」

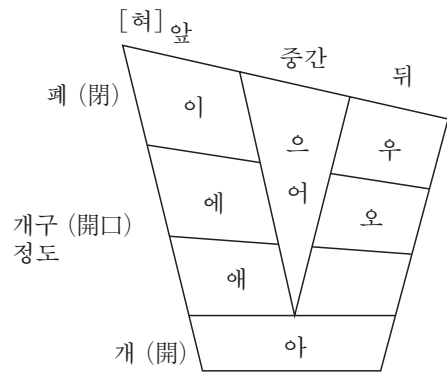
모음삼각도
(vowel-triangles)



헬와그 (Ch. Fr. Hellwag, 1783년)
-koreannote (2000. 03)

図4 「韓国語の基本母音図—母音四角形 (8個)」

(舌)前 中間 奥
-koreannote (2000. 03)



국어의 기본모음도
—모음사각형 (8개)—

図5 「韓国語の母音三角図」

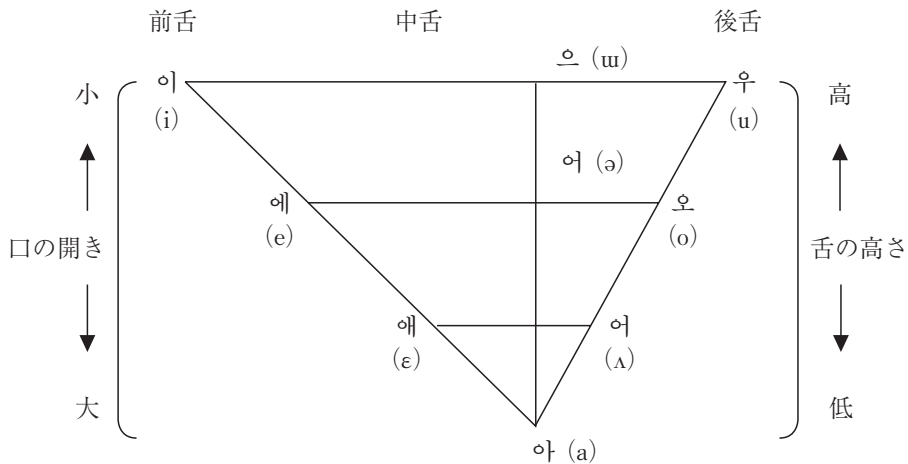


表4 舌の位置による単母音の分類

前舌母音	舌の前の部分が口蓋に近い状態で発音される母音	ㅣ	ㅑ	ㅓ
後舌母音	舌の奥の部分が口蓋に近い状態で発音される母音	ㅡ	ㅕ	ㅗ

舌の位置によって区分してみると、前舌母音と後舌母音とで分類できるが、舌の前の部分が口蓋に近いのか、舌の奥の部分が口蓋に近いのかで区分している。“ㅣ [i]”を発音してから続けて“ㅗ [o]”を発音してみると舌の位置が奥の方に動くのがわかる。もちろん、同じ前舌母音でも口の開く程度や唇の形は異なるので、その点は注意を払いたい。

表5 唇の形による単母音の分類

平唇母音	唇を丸くしないで発音する母音	ㅣ	ㅡ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ
円唇母音	唇を丸くして発音する母音	ㅜ			ㅝ		

円唇母音の“ㅜ [u], ㅝ [o]”は、唇を丸くして発音する母音であるが、“ㅑ [y], ㅓ [ø]”も単母音で発音すると円唇母音になる。唇を丸くしないで発音する母音は平唇母音となる。

上述した内容を一つの表にまとめてみると、表6になる。この個別母音を日本語の個別母音と比較しながら、その共通点と相違点を述べたい。

・“ㅗ [a]”と“ㅣ [i]”

“ㅗ”は、日本語の“ア [a]”と同じように発音しても差し支えはないものの、意識してほしいのは下あごの動きである。日本人が“ア”を発音する際は下あごをほとんど動かさずに発音する傾向があるが、韓国語の“ㅗ”を発音する際は意識的に顎を開くことが大事である。“아~~~~”と少し長く発音しながら、唇の形や舌の位置などが変わらないこ

表6 開口の程度・舌の位置・唇の形による単母音の分類

唇の形 舌の高さ	前舌母音		後舌母音	
	平唇母音	円唇母音	平唇母音	円唇母音
高母音	ㅣ		ㅡ	ㅜ
中母音	ㅐ		ㅑ	ㅗ
低母音	ㅓ		ㅕ	

とを確認し、これが単母音の特徴であることも再度認識する。

“ㅣ”は、日本語の“イ [i]”と同じように発音して差し支えない。

・“ㅐ [e]”と“ㅓ [ɛ]”

“ㅐ”は、日本語の“エ [e]”と同じ発音である。

説明に苦労するのが“ㅓ”であるが、母音三角図を見てわかるように“ㅐ”よりは“ㅓ”の方の舌の位置は低く、口を開く程度も大きい。顎をあまり動かさない日本人の学習者には、“ㅕ”と同じ要領で意識的に口を開けて発音するように指導する必要がある。

ただし、韓国語を母語としている大多数は“ㅐ”と“ㅓ”の区別をしていないのが現状であり、この二つの発音の区別はほとんど無視されている。従って、この二つの発音の区別はあまり強調する必要はなかろう。

・“ㅡ [u]”と“ㅜ [u]”

“ㅜ”は、円唇・後舌・高母音であるので、唇は丸くし、舌の奥の部分を軟口蓋に近づけ、口はほとんど開かないで発音する。日本語の“ウ [u]”と発音は似ているが、“ウ”よりは後舌母音であり、唇もより丸くして発音する。日本語の“ウ”を発音しながら意識的に唇を丸くして前に突き出すようにし、舌はできるだけ奥に引っ張って発音すれば良い。

“ㅡ”は、平唇・後舌・高母音であるので、“ㅜ”と違うのは唇の形だけである。即ち、唇を丸くせず、唇はほぼまっすぐの状態が発音すれば良い。唇を丸くして“ㅜ”を発音しながら、次第に唇の形だけをまっすぐに戻すと“ㅡ”の発音ができよう。

ここで意識すべき点は、“ㅡ”の調音位置が“ㅜ”よりは少し前であることと、両方とも下あごを動かさないで発音するということである。

・“ㅗ [o]”と“ㅑ [ʌ]・ㅓ [ə]”

韓国語の“ㅗ”と“ㅑ”発音の区別は多くの外国人が苦手としている母音でもある。特に“ㅑ”発音のない日本語を母語としている学習者には二つの発音を区別するのはたやすいことではないので、簡単な単語を反復的に練習した方が効果的であろう。

“ㅗ”は、円唇・後舌・中母音であるので、唇を丸くして、舌の奥の部分を軟口蓋に近づけて調音するようにする。日本語の“オ [o]”に近い発音なので、そのまま置き換えてもよいが、意識してほしいのは、“オ”より唇を丸くして前に少し突き出すように発音す

ることである。これは“オ”を発音する際の日本人を見ると、上唇をほとんど動かさずに発音する傾向があるからである。

日本人が最も苦手とする“ㅓ”は、音声的に長い[ʌ]と短い[ə]という発音があり、学習者が混乱しやすいので、練習する際は[ə]発音を中心にした方が良からう。“ㅓ”は、平唇・後舌・中母音であるので、唇は丸くせず、調音位置が舌の中間部分と軟口蓋の前のところであることを意識する。口を開く程度は“ㅜ”とほとんど変わらないが“ㅓ”よりは小さくし、舌の先は下歯に当たらないようにする。“ㅓ”を発音させながら意識的に“ㅜ”を発音させるのも一つの方法であろう。

3.2.2 重母音の発音

単母音と重母音との違いというのは、発音を始める時と発音を終える時の唇の形が変わるか変わらないかであることは前述した通りである。単母音を発音する際は、唇の形が一定しているのに対して、重母音の場合は唇の形が変わるのである。重母音というのは、二つ又は三つの単母音でできている合成母音のことであり、上の表や図でも示したようにそれぞれの発音の位置が異なる複数の単母音を連続的に発音することによって、発音を始めるときと終える時との唇の形が自然と変わるわけである。

重母音にはどのようなものがあるかを表でまとめたのが表7である。

表7 重母音の分類

“ㅣ”系重母音	最初の発音が“ㅣ”で始まる	ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ
“ㅓ”系重母音	最初の発音が“ㅓ”で始まる	ㅖ, ㅙ, ㅜ
“ㅜ”系重母音	最初の発音が“ㅜ”で始まる	ㅛ, ㅜ, ㅟ
その他	文法的な機能により、四つの発音がある	ㅟ

“ㅏ [ja]”の場合は、“ㅣ [i]”と“ㅓ [a]”の単母音でできており、最初の唇は“ㅣ”発音の形であるが、最後は“ㅓ”発音の唇の形になる。同様に“ㅖ [wʌ]”の発音も、“ㅓ [u]”と“ㅓ [ʌ]”の単母音でできており、最初の唇は“ㅓ”，最後は“ㅓ”発音の唇の形になる。他の重母音も同じであるが，“ㅟ [wi]”の発音だけは多様であり、注意が必要である。これを表でまとめたのが表8である。

表8 重母音“ㅟ”発音の分類

文法的機能	“ㅟ”発音の分類	単語の例	単語の発音
語頭	“ㅟ [wi:]”発音	의미 (意味)	의미 [wi:mi]
子音+“ㅟ”	“ㅣ [i]”発音	희망 (希望)	희망 [himag]
二音節以後	“ㅟ [wi:]”又は“ㅣ [i]”発音	회의 (会議)	회의 [hø:wi]/회이 [hø:i]
助詞	“ㅟ [wi:]”又は“ㅓ [e]”発音	저의 (私の)	저의 [tsaʌwi]/저에 [tsaʌe]

3.3 子音発音の学習方法

子音とは、呼気の流れを転換したり、妨害したり、閉鎖したりする方法で声帯を収縮することによって産出される音である²¹⁾。母音の場合は発音の際に調音される位置や唇の形や舌の高さなどによっていくつかのグループに分類することができたが、子音の場合は肺から出す空気が唇や舌や歯などの様々な器官で障害を受けてつくられる音なので、その障害が起きる位置や方法などによっていくつかのグループに分類することができる。それをまとめたのが表9である。

即ち、韓国語の子音は調音位置と調音方法によって分類し、さらに調音位置によっては両唇音、歯槽音、硬口蓋音、軟口蓋音、喉音、そして調音方法によっては破裂音、摩擦音、破擦音、鼻子音、側音などに分類していることがわかる。

まず、調音位置による分類について説明しよう。表9を見ると、5か所で呼気の流れに障害が起きて調音されていることがわかる。両唇音は上下の唇で、歯槽音は上歯茎よりやや内側の歯槽で、硬口蓋音は口蓋の中でも硬い口蓋部分で、軟口蓋音は硬口蓋音より奥の柔らかい口蓋部分で、そして喉音は喉で調音しているのである。

日本人には、このような複雑な調音位置というのは理解しにくい部分なので、一つずつ子音を発音させながら、その発音位置を認識させるのが大事な作業であると言えよう。

表9 子音の分類²²⁾

調音方法 調音位置				(前) ← 調音位置 → (奥)				
				両唇音	歯槽音	硬口蓋音	軟口蓋音	喉音
調 音 方 法	障害音	破裂音 ²³⁾ Plosives	平音	ㅂ [b], [p]*	ㄷ [d], [t]*		ㄱ [g], [k]*	
			激音	ㅃ [p ^h]	ㄸ [t ^h]		ㅋ [k ^h]	
			濃音	ㅃ [p']	ㄸ [t']		ㄱ [k']	
		摩擦音 Fricatives	平音		ㅅ [s]	ㅈ [ʃ]		
			激音					ㅎ [h]
			濃音		ㅆ [s']	ㅉ [ʃ']		
		破擦音 Affricates	平音			ㅊ [j], [ç]*		
			激音			ㅌ [ç ^h]		
			濃音			ㅌ [ç']		
	共鳴音	鼻子音		ㅁ [m]	ㄴ [n]		ㅇ [ŋ]	
		側音			ㄹ [l], [r]			

注：*は、無声音の発音。

21) 李喆洙, 前掲書, p 58。

22) 前掲書, p 38・43及び히용外6人, 前掲書, p 112両方を参考に作成。

23) 用語は、中野一雄 (1973)『英語子音論——日本語子音と対照して——』, 学書房出版を参考にして
いる。

次に、調音方法による分類をみると、破裂音、摩擦音、破擦音、鼻子音、側音などに分類していることがわかる。これについての説明は、『外国語としての韓国語教育概論』から引用することにする。

口の中の空気を出す方法には三つあるが、第一は、閉じた唇を大きく開けて風船が破裂するように一気に押し出す方法（破裂音）、第二は、唇を少し開けて小さい穴のあいだ風船から空気が漏れるように持続的に押し出す方法（摩擦音）である。第三は、前の二つの方法をミックスする方法で、唇を開ける際に完全に開かずに摩擦音を伴う方法（破擦音）である。鼻子音と側音も声を出す方法と関係のあるもので、鼻子音とは、口腔の中を閉じたまま軟口蓋を下げ、空気が鼻腔を通して放出される際に発音される音である。側音とは、空気が舌の両側を通して放出される際に発音されるもの（例えば、[l]のような発音）と舌の先で上歯茎を軽く跳ねながら発音されるもの（例えば、[ɾ]のような発音）とがある²⁴⁾。

ここで障害音と呼ばれる破裂音、摩擦音、破擦音と、共鳴音と呼ばれる鼻子音、側音とでは発音する際の声帯の振動があるかないかという点も一つの違いであり、学習者に実際発音させながら共鳴音は声帯の振動があることを確認させる必要がある。

日本人にとって韓国語の子音の発音は大変難しく、この問題を解決するためには教育者によるいくつかの工夫が必要となろう。以下ではそれぞれの発音に関して、学習方法を考えてみたい。

3.3.1 破裂音

日本語とは調音方法で明らかに異なる韓国語の発音は、韓国語の勉強を始める日本人にとって難題であることは間違いないが、それぞれの発音の特徴を理解すれば発音練習には参考になるであろう。

表9でわかるように、破裂音、摩擦音、破擦音には平音、激音、濃音の区分があり、これが韓国語の発音を難しく感じさせる要因にもなっている。特に日本語にはない濃音では多くの学習者が苦労している。

平音・激音・濃音の特徴をみると、呼気の強さでは激音が最も強く、声帯の緊張度では濃音が最も強い発音となる。本稿の前の部分で述べたように、“달 ([tal], 月, 平音)” “탈 ([tʰa:l], 面, 激音)” “딸 ([tʰal], 娘, 濃音)” という発音の中で日本人の学習者が最も苦手としたのが “딸 ([tʰal], 娘, 濃音)” であったが、呼気の強さでその違いを区分できるようにしたい。この破裂音の中で呼気の強さを確認するには両唇音の方が最もわかりやすいので、“바 [pa] (平音)”, “파 [pʰa] (激音)” “빠 [pʰa] (濃音)” という発音でその違いを説明する。用意するものとしては、風を感じやすいようなティッシュなどが好ま

24) 허용外 6 人, 前掲書, p 113.

しいであろう。

呼気の強さの面では、激音が最も強く、濃音が最も弱い。即ちティッシュを口の近くにしてから発音してみると、ティッシュの揺れが最も激しいのが激音である“ㅍ”で、揺れの最も小さいのが濃音の“ㅂ”で、平音の“ㅃ”は中間くらいの揺れをみせるのである。ティッシュがない場合は、普通の紙でもその違いははっきりとわかる。自分の手を紙の代わりにして発音してみてもよからう。発音の際には呼気の強さにも注意してほしいが、もう一つ声帯の緊張も意識しながら濃音で最も強い緊張があることを認識してほしい。両唇音である“ㅂ”, “ㅍ”, “ㅃ”でその違いが確認できたら、歯槽音や軟口蓋音などの調音位置の違う発音も繰り返して練習したい。

3.3.2 摩擦音

摩擦音の中では、“ㄴ[s]・[ʃ]”と“ㅎ[h]”の発音に注意したい。母音の発音を説明する際に表7で“ㄴ”は文法的機能によって三つの発音ができると言ったが、“ㄴ”と“ㅎ”も同様に位置や環境によって発音が異なってくるので、教育者にも学習者にも注意が必要となる。

“ㄴ”の場合は、調音位置によって発音が異なる。歯槽音では[s]であるが、硬口蓋音では[ʃ]となる。具体的にみると、“사”の場合は[sa]であるが、“시”の場合は[ʃi]となる。これは母音の影響によるが、“ㄴ”の場合入門期の学習者はそれほど神経質になる必要はないと思っている。

問題は“ㅎ”である。“ㅎ”の位置によっては発音されなかったり、注意しないと発音が脱落して発音されなかったりするので、最も注意が必要な子音である。これを表にまとめたのが表10である。

表10でわかるように、“ㅎ”の位置が語頭の場合は“ㅎ”の発音がはっきりとされる。

表10 “ㅎ”の発音

発音	“ㅎ”の位置	単語の例
“ㅎ [h]” しっかり発音	語頭	하나 [hana] ([하나, hana], 一つ), 해 [hɛ] ([해, hɛ], 太陽)
発音されない (発音に注意)	①母音と母音の間 ②前の文字の終声が共鳴音 (ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅇ)の場合	①이후 [i:fu] ([이우, i:u] 以後), 이하 [i:ɦa] ([이하, i:a] 以下) ②은행 [unɦɛŋ] ([은행, unɛŋ] 銀行), 길흉 [kirɦjuŋ] ([기흉, kirɦjuŋ] 吉凶), 감형 [ka:mɦjaŋ] ([가형, ka:mɦjaŋ] 減刑), 상하 [sa:ɦɦa] ([상하, sa:ɦɦa] 上下)
脱落	“ㅎ” 不規則用言+語尾	· 좋다 [tso:tʰa] (좋+은 [조은, tso:un], 良い, 形容詞) · 놓다 [noɦa] (놓+은 [노은, noun], 置 く, 動詞)

ところが、“ㅎ”の位置が母音と母音との間や前の文字の終声（バッチム）が共鳴音である“ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅇ”の場合は発音されなくなる。共鳴音のバッチムが前にある場合は注意して発音する必要がある。また, “ㅎ不規則用言”といわれる形容詞と動詞の語幹に母音で始まる語尾（例えば, “은 [un]”, “으니까 [unik’a]”, “으므로 [umuro]”, “았다 [at’a] (었다 [ʌt’a])”, “왔고 [ak’o] (였고 [ʌk’o])”, “아서 [asʌ] (어서 [ʌsʌ])”等々）が付く場合は“ㅎ”発音は必ず脱落される。この場合は“ㅎ”を意識的に発音しようとしてもなかなか発音できない。

3.3.3 鼻子音

鼻子音は, 語頭での発音と終声（バッチム）での発音とで差があり, 注意しなければいけないものなので, 教育者にも学習者にも注意が必要である。特に, 鼻子音の中で“ㄹ [m], ㄴ [n]”が語頭に来る場合は, 平音に近い発音となるので, そのことを十分に認識させながら発音の練習をしなければいけない。

日本人が苦手とする発音の一つが, この鼻子音の終声（バッチム）である。日本語には韓国語と比べて鼻子音が少ないため, これを聞き分けるのも発音するのも難しいようである。日本語には“ㄴ”でしか表記できないが, 韓国語の鼻子音には“ㄹ [m], ㄴ [n], ㅇ [ŋ]”があり, この区別に多くの日本人学習者は苦労している。この問題を克服するためには, “ㄹ, ㄴ, ㅇ”の付く言葉を反復的に練習し, 感覚的に覚えてもらう必要がある。例えば, “삼 ([sam], 三)”, “산 ([san] 山)” “상 ([saŋ], 賞)”といった言葉を用いて, 聞き取りと発音練習を繰り返し, 日本語とは違う感覚を覚えさせたい。

3.3.4 側音

日本語にはないこの側音も鼻子音同様日本人には難しい発音である。側音の“ㄷ”というのは位置によって発音が異なり, “[r]”と“[l]”の発音になる。これも表でまとめてみる。

表11でわかるように, 韓国語の“ㄷ”発音は条件によって“[r]”にも“[l]”にも発音されるが, 日本人にとって“[r]”と“[l]”発音の区別は大変難しい。表10の通りに, 母音と母音との間では“[r]”発音, その条件以外の場合は“[l]”発音となる。二つの発音の違いを覚えてもらうためには, 팔 ([pal], 八)などの“[l]”発音の単語を提示しながら, 発音時に舌を巻かないように指導する必要がある。意識的に舌の先を出させる練習に注意を払っていききたい。

表11

発音	“ㄷ”の位置	単語の例
[r]	母音と母音の間	소리 ([sori], 音), 유리 ([yuri], ガラス)
[l]	終声等その他の条件	팔 ([pal], 八), 울림 ([ullim], 響き)

4. お わ り に

韓国語と日本語とでは漢字という共通性を含めて文法的な面でも多くの類似性を持っている。一方、文字や発音などでは大きな相違点もあり、日本語を母語とする韓国語の学習者にはこのような相違点が大きな壁となっている。

本稿では、このような学習者が少しでも効率的に韓国語の発音が学習できるように、韓国語母音の音素とその発音に近い日本語の母音とを比較する一方、子音の発音では発音方法や発音位置などによって分類しそれを表にまとめてみた。しかし、母音及び子音の数で韓国語は日本語より多く、日本人が韓国語を無理なく発音できたり聞き分けできたりすることは容易ではない。

韓国語の文字、文法、語彙、聞き取りなどを含め、発音の学習には学習者の意欲と努力が必要であるが、また韓国語を教育する教育者にもいくつかの努力すべき点があろう。日本人を対象に韓国語の発音教育を行う際に、より分かりやすい発音教育のためには次の点に注意したい。

①まず、正確な発音を教えるためとはいえ、音韻論や音声学的な説明が中心となってしまうといけない。学習者に音韻論や音声学的な知識がなければ十分な学習効果は期待できないからである。一方、調音法などを説明するためには教育者に十分な音声学や音韻論的な知識は求められよう。それは両国語の発音体系について比較し、効率的に説明するためにはそのような知識は必要である。

②本稿でも母音三角図や母音四角図などを引用して発音の区別を視覚的に提示しているが、一部の母音 (ㅓ [y, wi], ㅜ [ø]) では単母音と重母音の区別が明確ではなかったり、韓国人にも発音の区別がなくなってしまった母音 (ㅓ [e] と ㅜ [ε]) があったりするのも事実である。したがって、韓国語を母語として使っている多くの人ですら明確にしていえないこのような発音の区別を学習者に強調する教育はむしろ学習者に混乱を招く恐れもあるので注意が必要である。

③発音教育において大事なことは、正確な発音を学習者に反復的に聞かせてそれを模倣させることである。その際には、教育者の様々な工夫が要求されるが、その標準となる発音が収録されたビデオテープやCDなどの用意はもちろん聞かせ方にも工夫が必要となる。教育者が直接発音を聞かせながら口の動きなどを見せるのが良いが、CDなどを利用した教育にも学習者を集中させたり、標準となる発音を聞かせたりすることができるなどの効果があるので積極的に活用したい。ここで注意すべき点は聞かせ方であるが、学習者が退屈しないように反応を見ながら聞かせる回数や時間などを決めたい。

④教育者の学習者への気配りも欠かせない。常に学習への意欲を鼓舞しながら、教育の意図や目標を明確に認識したうえで正確に発音をしようとしているのかなどに関心を持つべきである。

⑤上記のことを踏まえたうえで、学習の順序にも気を付けたい。最初に、子音のそれぞれの発音を明確に理解させ、実際の発音を練習させる中で、平音・激音・濃音の区別を認

識させる。それから、調音位置と調音方法に留意してもらいながら平音・激音・濃音の区別を理解させる。母音では、まず基本母音である“아 [a], 이 [i], 우 [u], 에 [e], 오 [o]”を理解させたうえで、似ている発音を繰り返して聞かせることによってその区別ができるようにしたい。その際は、意味を持っている単語（例えば，“글 ([kʌl], 文字)”と“굴 ([kul], 牡蛎)”, “볼 ([pol] 頬)”と“벌 ([pø:l], 蜂)”, “제일 ([tse:il] 第一)”と“재일 ([tse:il] 在日)”など)を利用して発音によってその意味が異なることを認識させたい。

以上では発音教育においての教育者の注意すべき点をいくつか提示してみたが、韓国語の教育というのは発音だけではないので、その他の文法や語彙などの教育ともバランスのとれた教育になれるように注意したい。他にも配慮すべき点はもっとあるはずであるが、基本的には韓国語はもちろん日本語の音声や音韻的な特徴についての研究、発音教育方法の工夫、学習者への配慮などに努力していきたい。ここでは母音と子音の発音についてのみ述べてきたが、文法的な要素とともに学習していかなければならない発音教育（例えば、連音法則、口蓋音化、子音脱落、頭音法則等々）も多くあるので、それについてもさらに研究を続けていきたい。

参 考 文 献

・韓国語文献

1. 孔明哲, 「공명철의 열린 국어 강의노트 (孔明哲の開かれた講義ノート)」, <http://ipcp.edunet4u.net/~koreannote/img/모음삼각도.jpg>
2. 孔明哲, 「공명철의 열린 국어 강의노트 (孔明哲の開かれた講義ノート)」, <http://ipcp.edunet4u.net/~koreannote/img/모음사각국어.jpg>
3. 朴榮順 (2002) 『外国語로서의 韓国語教育論 (外国語としての韓国語教育論)』, 図書出版月印。
4. 吳大煥 (2003) 「일본 대학에서의 한국어 발음 교육——나고야 상과대학의 예를 중심으로——(日本の大学における韓国語の発音教育——名古屋商科大学の例を中心に——)」『外国語로서의韓国語教育 (外国語としての韓国語教育)』第28集, 延世大學校言語研究教育院韓国語語学堂。
5. 李相億外 (2003) 『韓国語 I』, ハンリム出版社。
6. 李喆洙 (1993) 『韓国語音韻学』, 仁荷大学校出版部。
7. 全美順 (2001) 「일본어 모어 학습자를 위한 한국어 발음 교육 방안 연구 (日本語を母語とする学習者のための韓国語の発音教育方案に関する研究)」, 慶熙大学修士論文。
8. 韓国放送公社 (1999) 『標準韓国語発音大辞典』, (株)語文閣。
9. Heo, yong 外 6 人 (2005) 『外国語로서의 韓国語教育概論 (外国語としての韓国語教育概論)』, 図書出版박이정。
10. Hwang, hye-sook (2006) 「일본어권 학습자를 위한 한국어 발음교재 개발 연구 (日本語圏の学習者のための韓国語教材の開発研究)」, 慶熙大学修士論文。
11. 梅田博之 (1988) 「韓国語와 日本語——言語 教育上の 問題点에 대하여——(韓国語と日本語——言語教育上の問題点について)」『일본에서의 한국어 교육 (日本における韓国語教

育)』, 二重言語学会。

12. 伊藤貴雄(2006)「입문기 한국어 교육방법 연구 (入門期の韓国語教育方法に関する研究)」, ソウル大学修士論文。
13. 小坪由希(1992)『일본인에 대한 한국어 학습 문제점 연구 (日本人に対する韓国語の学習問題点に関する研究)』, 東亜大学修士論文。
- ・日本語文献
14. 中野一雄(1973)『英語母音論——日本語母音と対照して——』, 学書房出版。
15. 中野一雄(1973)『英語子音論——日本語子音と対照して——』, 学書房出版。
16. 平山亮, 「ニューラルネットで探る発話のメカニズム」, http://results.atr.jp/atrlj/ATRJ_12/24/fig_01.html
17. 服部四郎(1960)『言語学の方法』, 岩波書店。
- ・韓国語教材
- ・韓国語教材(大阪経済大学の図書館所蔵)
1. 権在淑(2007)『図解でわかる韓国語』, (株)アルク。
2. 金東漢・張銀英(2004)『韓国語レッスン初級Ⅰ』, (株)スリーエーネットワーク。
3. 金文喜(2006)『CDを聞くだけで韓国語が覚えられる本』, (株)中経出版。
4. 金裕鴻(2003)『はじめての韓国語会話』, (株)ナツメ社。
5. 金貞姫(2006)『CD付絵で覚える韓国語単語』, 成美堂出版。
6. 李蓮玉・崔明淑(2000)『韓国語イキイキ表現初級』, (株)アルク。
7. イユニ(2004)『リスニングマスター』, (株)アルク。
8. 李昌圭(2007)『CDブックはじめての韓国語』, (株)ナツメ社。
9. 李清一(2004)『ハングル読み書きドリル』, 池田書店。
10. 田星姫・河村光雅(2004)『しっかり身につく韓国語』, ベレ出版。
11. 崔英伊(2007)『CD BOOK 韓国語会話パーフェクトブック』, ベレ出版。
12. 韓誠(2006)『韓国語が面白いほど身につく本』, (株)中経出版。
13. 韓国言語文化研究院(2006)『韓国言語文化リスニング集』, 白帝社。
14. 韓日交流センター監修(2008)『30日で学べる韓国語文法』, (株)ナツメ社。
15. 阿部真千子(2005)『まずはこれだけ韓国語』, (株)国際語学社。
16. 兼若逸之(2003)『ミサの韓国で会えたら』, 日本放送出版協会。
17. 木内明監修(2005)『短い韓国語フレーズ1000』, 主婦の友社。
18. 木谷朋子(2007)『LIVE from SEOUL 韓国語で楽しむとっておきのソウル』, (株)ジャパンタイムズ。
19. 中川明夫・イヘウン(2007)『CD付しっかり学べる韓国語』, (株)ナツメ社。
20. 中山義幸(2006)『聴ける! 読める! 書ける! 話せる! 韓国語初歩の初歩』, 高橋書店。
21. 成瀬武史・小倉星香(2004)『自分のすべてを韓国語で口にできる本』, (株)アルク。
22. 早川嘉春(2001)『CD エクスプレス朝鮮語』, 白水社。
23. 早川嘉春(2006)『韓国語のスタートライン』, (株)三修社。
24. 古田富建・イヨンシル(2005)『パーフェクトフレーズ韓国語日常会話』, (株)国際語学社。
25. 堀岡三佐子(2007)『はじめてのハングル基本ぜったいマスター BOOK』, (株)宝島社。
26. 増田忠幸(2007)『CD付韓国語ステップアップ20』, (株)三修社。
27. Language Research Associates(2006)『すぐに使える韓国語会話』, (株)ユニコム。

28. 山崎玲美奈（2006）『起きてから寝るまで韓国語表現ドリル』，（株）アルク。
29. ジャレックス編（2005）『覚えるコツがどんどんつかめる韓国語会話』，高橋書店。